

すぎのこつうしん

平成27年度 9月号 古川東町カトリック保育園

「お年寄りを大切にする心を育てる」

暑い暑いと口を開く度に言っていたら、お盆が過ぎた頃から、あっという間に涼しくなってきました。連日、熱中症警戒情報が出ていたとは思えない程度です。8月末には、フールも片付け、いよいよ運動会の準備が始まります。今年は昨年とはひとあじ違ったものになるのではと期待しています。

私事ですが、先日還暦祝いの同級会がありました。私も含めみんなそれぞれの夙願になっていましたが、素直に年を重ねて来ているなど感じました。中学校を卒業してから45年それぞれに順風満帆な生活を送って来た訳ではないでしょう。子どもの事、仕事の事、親の事、夫婦間の事、自分の身体の事…たいへんな経験をしてきた人たちも少なからずおられます。それを乗り越えて迎えた60才、それは周りの人たちの助けを借りてのことに間違いはありませんが、一人一人の努力もあったことに他なりません。保護者の皆様の親御さんにおいても例外ではありません。

どうかおしいちゃん、おほあちゃんを大事にして下さい。子ども達はその姿をじっと見ています。そうすれば子ども達もきっとみんなを大切にする人になることでしょう。

<園長 平野 義子>



★行事予定★

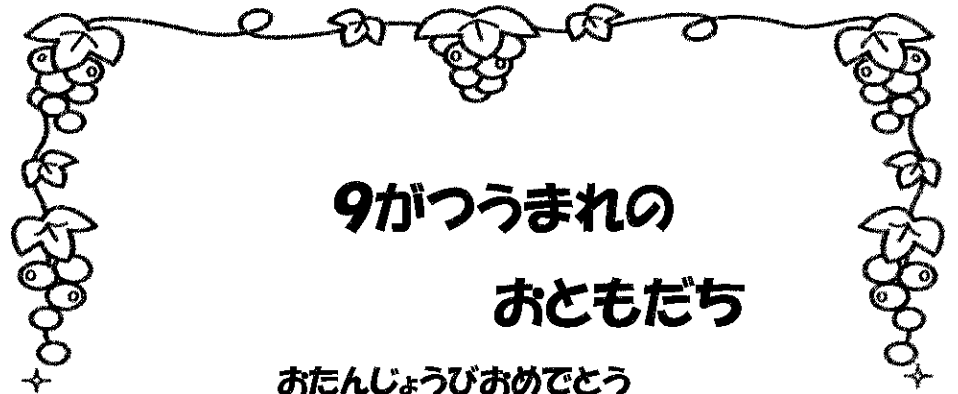
- 11日 誕生会
- 18日 運動会総練習
- 19日 杉の子役員会
- 26日 運動会
- ?日 避難訓練

◆おとうさん・おかあさんから◆

ほんび組からお世話になり早いものでひつし組まで成長しました。入園後すぐ、嘔吐・下痢の続く体調不良で2週間休位しました。あの時はミルクも飲まず笑顔もなく本当に心配しました。今では少し困る位活発になりました。こねこ組のクリスマスパーティーではセリフを3回も間違えて皆を笑わせてくれました。

気が強く、頑固な○○。不安や寂しさで荒れている時も温かく見守ってくれた先生方、いつも遊んでくれるお友達ありがとうございました。残り、いろいろな行事があります。今しか出来ない経験をして来年4月には自分に自信を持ってピカピカの1年生になってほしいと思います。

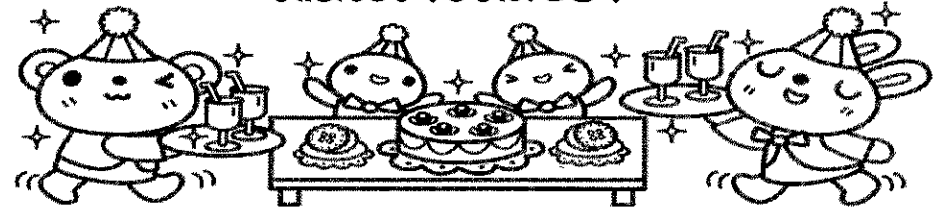
<ひつし組 ○○ ○○くんのお母さん>



9がつうまれの

おともだち

おたんじょうびおめでとう



♪今月のうた♪

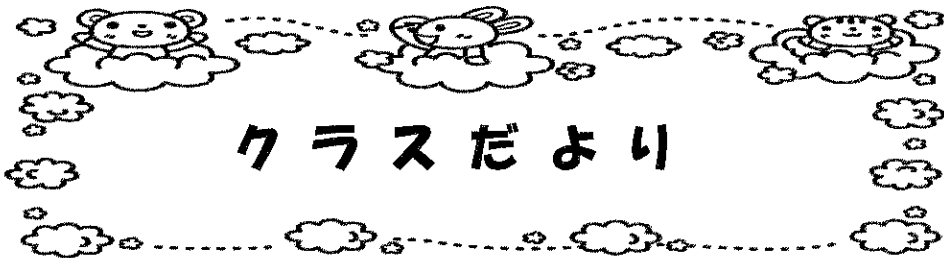
「あいかとう こころから」

- | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. このひろいせかいで たったひとつのいのち
そんなきみにであえて あいかとう
あいかとうあいかとう うまれてきてくれて
おめでとうおめでとう こころから | 2. かみさまにあいさした かたかえのなみのち
そんなきみにであえて あいかとう
あいかとうあいかとう うまれてきてくれて
おめでとうおめでとう こころから |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|

「かたたたき」

1. トントントン かたたたき りょうてそろえて トントントン
かたてでトントン かたてでトントン げんきでいてね おしいちゃん
2. ちょっとだけおさく かたたたき りょうてそろえて トントントン
かたてでトントン かたてでトントン げんきでいてね おほあちゃん
3. ちょっとだけけいさく かたたたき りょうてそろえて トントントン
かたてでトントン かたてでトントン げんきでいてね いつまでも

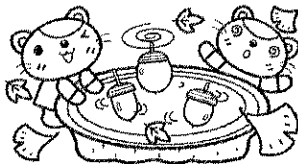




クラスだより

ほんび組(0歳児)

- <ねらい> ・身近にいるお年寄りとの触れ合いを喜ぶ。
・身の回りの人や物に好奇心が芽生え、関わろうとする。
- <家庭連携> ・身近にいる祖父母や地域の方々と触れ合う機会を作しましょう。
・身の回りの人や物に興味や関心が持てるように声を掛けたり、触れて遊べるようにしていきます。

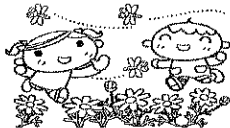


ひよこ組(1歳児)

- <ねらい> ・お年寄りとの触れ合いを楽しむ。
・戸外で伸び伸び体を動かして遊ぶ。
- <家庭連携> ・祖父母や近所のおじいちゃん、おばあちゃんと関わりを持ちましょう。
・休日ほかけっこや追いかけっこなど、体をたくさん動かして遊ばせよう。

こどい組(2歳児)

- <ねらい> ・お年寄りと関わり、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
・保育士や友だちと一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- <家庭連携> ・お年寄りの方と触れ合う機会をつくり、一緒に遊ぶ楽しさを伝えていきましょう。
・運動会の練習がはじまり、体を動かす活動が増えてきます。家庭で十分に休息をとるようにしましょう。



こねこ組(3歳児)

- <ねらい> ・お年寄りとの触れ合いを喜び、労わりの気持ちを持つ。
・走る、跳ぶなどの運動機能が高まる。
- <家庭連携> ・祖父母や地域のお年寄りと関わる機会を持ち、優しく接したり、大切にしようと思えるよう知らせましょう。
・運動会の練習が始まっています。練習の様子を聞いたり、寝具を褒めてあげ、自信がもてるようにしましょう。

うさぎ組(4歳児)

- <ねらい> ・お年寄りとの関わりを楽しみ、尊敬、労わりの心が育つ。
・共通の目的を持って活動することを楽しみながら友達とのつながりを深める。
- <家庭連携> ・祖父母との関わりの中でお年寄りを大切にし、尊敬する気持ちを持てるよう働きかけていこう。
・運動会を通して、同じ目的に向かって、協力して行えるよう励ましていこう。

ひつじ組(5歳児)

- <ねらい> ・お年寄りへの親しみを持ち、尊敬、労わりの心が育つ。
・運動会に向け、目標を持ち、自分なりの役割を果たす。
- <家庭連携> ・お年寄りへの尊敬心や労わりの気持ちが芽生えるよう、祖父母・曾祖父母の昔話などをたくさんしてあげましょう。
・運動会の練習でどんなことを頑張ったか質問し、褒めたり、次の目標を共に考えることで自信を持ち意欲的に取り組めるようにしましょう。

給食室

- ・寒暖の差が激しい今の季節は体調を崩しがちです。好き嫌いせず、いろいろな食材をまんべんなく食事に取り入れましょう。
根菜類などの体を温める効果のある食材や免疫力を高めるビタミンがたくさん含まれている野菜や果物を取り入れてみてはいかがでしょうか。

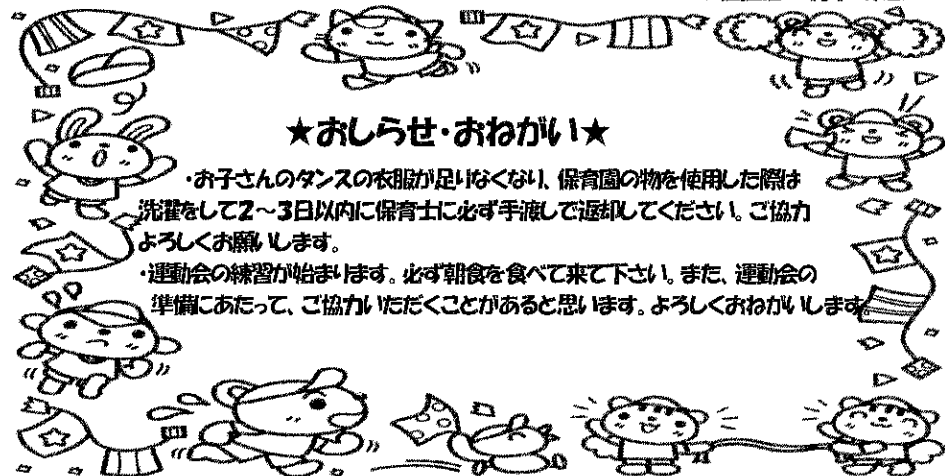


「お年寄りの方々を大切にする心が育つ」

私には一緒に住んでいた祖母がおり、一緒に遊んだり出かけたりと沢山の思い出があります。今でもケチカチをするくらい元気な祖母からは様々な事を教えてもらいました。もちろん、言葉にして教えてもらったことも沢山ありますがそれだけではあいません。それは挨拶です。当たり前のことですが、朝起きてから夜寝るまで日常使う挨拶は毎日かかさず、誰もいない時でも必ずしていました。大きくなると黙れくさかったりで言わないことも増えましたが、母親となった今改めて挨拶の大切さを感じています。口で言うだけではなく、まずは大人がしてみせることで「やってみよう」と思えることもあると思います。そう思わせてくれた祖母には感謝しており、私も周りからどう思われるよう日々の保育でも活かしていきたいと思えます。

また、昔ながらの知恵や戦争のことなど、昔から今へと繋げていかなければいけないことを教えてくれるお年寄りの方々の言葉にきちんと耳を傾け、今から未来へ繋げていくという役目も私たちにはあると思うので、お年寄りの方々を大切に沢山の話を聞く機会を作ってもらえればと思います。

<ほんび組担任 青木 友香>



★おしらせ・おねがい★

- ・お子さんのダンスの衣服が足りなくなり、保育園の物を使用した際は洗濯をして2~3日以内に保育士に必ず手渡しで返却してください。ご協力よろしくお願いします。
- ・運動会の練習が始まります。必ず朝食を食べて来て下さい。また、運動会の準備にあたって、ご協力いただくことがあると思います。よろしくおねがいします。



あなたの一分間拝借！

2015年9月1日

9月のテーマは、「お年寄りを大切にすることづくりに励みましょう！」です。

大切にすることというのは、互いに人格的存在であるということを確認し合い、尊敬し合い、労わり合うことだと思います。お年寄りは、些細なことでも、例えば、名前を呼ばれることにも、とても敏感でびっくりすることがあるものです。呼び捨てにされたとか、「さん」づけで呼んでくれなかったことで一日中捻（ひね）くれている姿を見ると「老人は二度童（ニドワラベ）」となるということを思い出し自省させられるものです。又子ども時代のことを思い出します。祖母が、朝ご飯の準備をしている時、祖父の大きな声が聞こえてきたのです。「オイッ！オイッ！」祖母は返事をしません。二回、三回、・・・ついに血相抱えて祖母に「爆弾」が炸裂する中、祖母は凛として返事をしたのです。「私はオイッではない、親から『おタツ』という名を頂いている」と。まさに『名は、体を表す』です。筆記は祖母の上にあります。

特別養護老人ホームでの思い出もあります。施設で介護する人を『介護士』といいます。介護士さんたちの慈愛に満ちた介護如何で施設の信用が評価されると言われるほど介護士さんの言葉、介護する時の言葉だけでなく、自由時間の時でも、家に帰ってからも、或いは家族同士でも言うてはならない言葉があることに目覚めてほしいものです。どんな方でも人格を貶（けな）したり、傷つけるような言葉は慎まなければと痛感させられたものです。例えばこんな会話を耳にしたことがあります。『ワッ臭い、良い香りのする「ウンチ」はないかしら！』『今取り替えたばかりなのに、また出たの！』・・・『いつまで食べているの、良くこぼすわね！』『年寄りなのに、よく食べるわね』『わがままいわないで食べて！』入浴時間中・・・『少しくらい熱くても我慢するのよ』『いつまで入っているの、まだ濡れているから着てはだめ！』等々・・・。お年寄りは孤独や不安と日々闘っております。施設だけでなく家庭でも、また独居生活の方々にも、人格的配慮に満ちたケアを分かち合えるような人間性を育む9月の日々を過ごしましょう。特に最期の時にこそ、お年寄りを大切にすることが、私たちの思いやりと愛によって証明されます。死、それは自分の人生を汚れない清き供え物として、愛である神に捧げる厳粛な瞬間であるということが出来ます。それだけにふさわしい自分を締めくくりとして、聖書の導きのもとに新しい自分に変わるのが全ての人々に求められます。



高齢社会、核家族化等の今、聖書は両親との関わり方について次のように啓示しています。

旧約聖書シラ書3章12-14

子よ、年老いた父親の面倒を見よ。生きている間、彼をかなしませてはならない。たとえ、彼の物覚えが鈍くなっても思いやりの心・気持ちを持って。自分が活力にあふれているからといって、彼を軽蔑してはならない。主は、父親に対するお前の心遣いを忘れない。

箴言書23章22 シラ書3章16

父に聞き従え、生みの親である父に。母が年老いても、侮ってはならない。父を見捨てる者は神を冒瀆（ぼうとく）する者と同じく父母を怒らせる者は、主に呪われている者！

両親を敬う義務は決して終わるものではありません。また親は子どもを自分たちの愛の果実としてだけ考えず、『神の賜物』と受け止めながら、成人するまで育成に励み、責任ある育児をしてこそ子ども達から尊ばれる存在となります。自分の思いのままに育てたり、自分の夢を子どもの将来に期待して子どもの人生に水をさすようなことをしないようにしましょう。子どもが成人しても結婚しても、親は依然として親であることに変わりはないのですから人生の先輩として家族の絆を深め、学び合うことが肝要と心得ます。「茄子の花と親の意見は、千に一つのむだがない」という諺があります。（茄子の花が必ず実を結ぶように、親の意見にも必ず得るところがある）老いは誰にでもある。老いと正しい関わり方が、家族を豊かにし、あなたを永遠の命に導く！

カトリック古川教会
司祭 川井 啓

